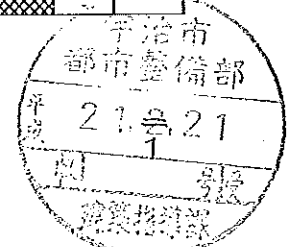


欄に数値またはコメントを記入

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q-1 室内環境			0.40			3.7
1 音環境		3.1	0.15			3.4
1.1 騒音		3.0	0.40			
1 1 騒音レベル		3.0	1.00			
1.2 遮音		3.3	0.40			
1 1 開口部遮音性能		3.0	0.40			
2 壁遮音性能		3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	大学セミナー教室としての配慮を行なった	4.0	0.15			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	大学セミナー教室としての配慮を行なった	4.0	0.15			
1.3 吸音		3.0	0.20			
2 湿熱環境		3.6	0.35			3.6
2.1 室温制御		3.0	0.50			
1 室温設定		3.0	0.60			
3 外皮性能		3.0	0.40			
4 ゾーン別制御性						
2.2 湿度制御		3.0	0.20			
2.3 空調方式	大空間に床吹出方式を採用	5.0	0.30			
3 光・視環境		3.2	0.25			3.2
3.1 昼光利用		3.6	0.30			
1 昼光率	大学用途として明るく開放的な施設計画を行なった	4.0	0.60			
2 方位別開口						
3 昼光利用設備		3.0	0.40			
3.2 グレア対策		2.0	0.30			
2 昼光制御		2.0	1.00			
3.3 照度		2.0	0.15			
1 照度		2.0	1.00			
3.4 照明制御	照明制御を細分化し、ランニングコストの削減に配慮	5.0	0.25			
4 空気環境		3.8	0.25			3.8
4.1 発生源対策		5.0	0.50			
1 化学汚染物質	学校施設としての空気環境に配慮し、フォスター製品を採用	5.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30			
1 換気量		3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33			
4.3 運用管理		2.0	0.20			
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50			
2 喫煙の制御		3.0	0.50			
Q-2 サービス性能			0.30			3.7
1 機能性		3.8	0.40			3.8
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.60			
1 広さ・収納性						
2 高度情報通信設備対応						
3 バリアフリー計画	ハードビル法の利用円滑化誘導基準を満たしている	4.0	1.00			
1.2 心理性・快適性		3.5	0.40			
1 広さ感・景観		3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース						
3 内装計画	木質系仕上げ材の採用をコンセプトとして計画	4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		3.3	0.31			3.3
2.1 耐震・免震		3.6	0.48			
1 耐震性	学校施設として、耐震性の向上を図る	4.0	0.80			
2 免震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.7	0.33			
1 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.29			
2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.12			
3 配管・配線材の更新必要間隔		3.0	0.29			
4 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.29			
2.4 信頼性		3.4	0.19			
1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備	耐震性への配慮や非常時に対応できる二次設備を計画	4.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備	複数の通信設備を整備	4.0	0.20			



3 対応性・更新性			3.0	0.29		-	3.9
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31		-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上確保	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	多目的にも仕様できる自由度の高い空間の計画	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		2900N/m以上の荷重を構造計算上見込んでいる	4.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q-3 室外環境(敷地内)				0.30			4.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺街並に配慮した緑地計画と建物配置	5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30		-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域に開放され屋外空間を計画	5.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	適正な緑地やビロテを設置するなど通風や木陰を計画	4.0	0.50		-	
国R 建築物の環境負荷低減							3.6
LR-1 エネルギー				0.40			3.0
1 建物の熱負荷抑制		施主判断基準値をクリア	5.0	0.30		-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20		-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	室内への自然採光の取り入れ	4.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		CEC値の低減	3.8	0.30		-	3.8
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR-2 資源・マテリアル				0.30			3.6
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水	節水型給水設備等の採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム		3.0	0.67		-	
2	雑排水利用システム		3.0	0.33		-	
2 低環境負荷材			3.6	0.85		-	3.6
2.1	資源の再利用効率		3.6	0.35		-	
1	躯体材料の再利用効率	コンクリート部分に高炉セメントや再生骨材を利用	5.0	0.67		-	
2	非構造材料の再利用効率		1.0	0.33		-	
2.2	持続可能な森林から産出された木材	間伐材などの採用	3.0	0.04		-	
2.3	有害物質を含まない材料	フォスター製品の採用	5.0	0.08		-	
2.4	既存建築躯体などの再利用		3.0	0.18		-	
2.5	躯体の再利用可能性	躯体と仕上げ材が容易に分別可能な計画	4.0	0.18		-	
2.6	フロン・ハロンの回避		3.0	0.18		-	
1	消火剤	ハロン消火剤の不採用	4.0	0.33		-	
2	断熱材		3.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR-3 敷地外環境				0.30			3.4
1 大気汚染防止		総換気機の不採用	5.0	0.15		-	5.0
2 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.15		-	3.0
2.1	騒音		3.0	0.33		-	
2.2	振動		3.0	0.33		-	
2.3	悪臭		3.0	0.33		-	
3 風害、日照障害の抑制			1.8	0.15		-	1.6
3.1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
3.2	日照障害の抑制	日影規制を遵守し、周辺への日照を配慮	3.0	0.30		-	
4 光害の抑制		周辺住宅地への配慮	4.0	0.10		-	4.0
5 温熱環境悪化の改善			3.0	0.30		-	3.0
6 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.15		-	3.0
6.1	雨水処理負荷抑制		-	-		-	
6.2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.50		-	
6.3	交通負荷抑制		-	-		-	
6.4	廃棄物処理負荷		3.0	0.50		-	

国 LR-1 用途別得点表		学校	-	-	-	面積按分 総合スコア
		3365 m ²	-	-	-	
1	建物の熱負荷抑制	5.0	-	-	-	5.0
3	設備システムの ERRによる評価	-	-	-	-	3.8
	高効率化 個別設備による評価	3.8	-	-	-	
3.1	空調設備	4.0	-	-	-	
3.2	換気設備	4.0	-	-	-	
3.3	照明設備	3.0	-	-	-	
3.4	給湯設備	3.0	-	-	-	
3.5	昇降機設備	-	-	-	-	

